

23/7/3 河村たかし名古屋市長定例記者会見（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

記者：市長、NHKですが、先週議会の委員会、総務環境とか経済水道とか開かれて、その中で名古屋城のことについて、討論会もそうだけど復元計画全体についてもその検証の対象に加えるべきじゃないかという話が出たり、あと杉野副市長からの検証は半年から1年ぐらいかかるんじゃないかという話を、

市長：3、4か月って言わへんかったけ。1年かもと。

記者：私聞いたところだと1年とか半年とかっていう声がきこえたんですが、そのあたり、市長ご自身は委員会の討論とかも報告を受けたと思うんですが、感じられてる部分があれば伺ってもよろしいですか。

市長：とにかく、市民討論会におきましては何べんも謝っておりますけど、傷をつけた発言がございまして、これは大変申し訳ないというか、すいませんということでございます。だけどマスコミで見とって河村さんが発言したのかという、間違えとる人も。私が言ったんでないよということですけど、市民討論会においてもよう注意して、市民討論会な本当の市民が自由な発言をしてって、これは非常に重要なことですけど、当然何が起こるかわかりませんし、もうちょっと丁寧に言えば、やっぱり不自由な、あんときはハンディキャップのあるという表現を使ったと思いますけど、ハンディキャップがある皆さんのこととございまして、思わぬ差別発言が出る可能性があるぐらいのことは予想しておいて、事前に言えばよかったんですけど、注意してくださいよ。

あれはちょっと私からも、冒頭の始まるときに反対にですね、ああいう無作為抽出して、本当に、他の人が来てもらうようにしようということにしたんですよ。

せっかくやるんだで、ようけの人来てもらって、皆にわーわー言ってもらう、わーわーは悪いけど言って入れてもらったんでね、意見をもらった方がいいんじゃないかいうことがありましたけど、そうするとどうしても偏りが生じますので、残念ながらね。特定のグループなんか来て、いろいろ言いますんでね、そうじゃなくて、36人意志表示した人だけにしようよ。

そのかわり、どういったかなあはじめのときは、始まるときは、伸び伸びとは言わないんだけど、自由にご発言くださいか。そういうような話だったわな、確か。

まあええですけどそこところ。そういうようなふうで始まったということとございまして、ああいうことなりまして申し訳ねということですけど、これあのマスコミ見ると、誤解があるのがあって一切市が何もしなかったというわけではなく、初めのお一人目の方が喋られたときには、これは言い合いになりましたから僕もよく耳に残っておりますけど、言い方もちょっときつかったですが、何やらで、我慢せよとというのを言い合いがあったというこ

とでその後市の職員が駆けつけまして、それは止めたということ。それが差別発言で止めたのか、喧嘩は遺憾ということで止めたとかですね、ご意見はありますけど。その辺になってきますよちょっとですね、私自身困ったなとこれとは思ったら、すぐ市の職員が来て止まりましたのでよかったなと思う、そうとは思わなかったんですけど、よかったなという感じでその後ずっと話が進んでいったということです。

ということで、その次の発言された方については、我慢せよというのは、初めの方の我慢せよという言葉はよう言ってますけど、言い方もあれはちょっといかんですけど、おまえさんの不自由があるんだで我慢せよ、これちょっと今、差別発言になると思うけど、我慢せよという言葉自体はですね、じゃ、お互いに我慢しようと言った場合は、それは差別発言にはならないと思いますけど。

二人目の方の発言はいわゆる差別発言ですけど、バーっと人間には不平等があってそれでこういうのがあってから健常者もおってということでザートといきまして、個人に向けられた話ではなかったですね僕の印象では。

一般論でばーっと話されたんでないかと思いますが、後で聞いた話ですけど、その話は個人に向けたものではないと、一般論として、人間には不平等があってその不平等には何とか言う方とか、健常者も居るとか、そういう話だったこともあり、聞こえなかったというのがこないだも本会議で言いましたけど、耳に残らなかったというのがですね、正しい感覚は。僕以外でも、役所の人でも河村さんのいう通り、耳に残らなかったのか何か、記憶に残らなかったのか、あるいはそうだったというのもあったということで。終わるときには盛り上がってというか皆さん意見を言ってたということで、8人喋られましたけど、6人は大変いい意見だったですよ、いまだに私は思いますけど。全く普通の市民ですからね、無作為で当たった人ですから、全く普通のという怒られるかわからんけど、一般的な市民の方が、ああいうところに出てきて、テレビカメラの前で喋るってのは結構すごいプレッシャーなんですよ実はこれは。だから非常に良かったんですけど、お2人の方からそういう話が出て残念は残念ですよということだったということです。

それから、これからちょっとこっちから言ってかなあかんのは、それからいろんなところのていどはありますけど、熊本城と同じようにしろという意見がありますけど、これ Google をぜひ見ていただいて今からでもいいですけど、マスコミの皆さん、熊本城は昭和 35 年ですね、名古屋城は昭和 34 年です。

1 年違うだけです。熊本城は名古屋城と同じ鉄骨鉄筋コンクリートのお城ですから今も。ほぼ名古屋と同じと言ってもいいですよ。

ここに確かに一番上まで行けるようにエレベーターをつけたんですけど、これあの熊本の市長に裏取ってもらってもいいけど、ちゃんと熊本市長にも電話してありますから、あの名誉を毀損するつもりはないです熊本城のね。あれも西南戦争の直前に燃えたんですけど、加藤清正、この尾張のお母ちゃん同士が秀吉と家康だと言われております中村の出身の方が行って造ったんですけど、西南戦争の直前に燃えまして

造り変えた城しようというのは昭和 35 年、名古屋城と同じだよ要は、今のコンクリートである名古屋城と同じなんです。

熊本城と同じようにするんだったら名古屋城もそう言われたらどうですか、それこそ、これは、何をやっと思ったんですかとなりますわねこれ本当に。

名古屋城は図面もあるし、国宝1号だったし、写真もものすごい量ありますし、野帳という、そのときのいろんな作業の図面もありますし、金城温故録といつてな何冊あったか忘れましたがもすごい資料が残ったんですね。

多分、多分というか、多分じゃなくて世界でただ一つ。昨日 NHK でやっておりましたけど、家康さんがその後ですね、嫁さんと息子を亡くしました昨日、いろんなことがあって、最後この名古屋城から大坂夏の陣に出陣するわけです。

そのときに、多分天守に上がったであろうお城そのままが復元できると言いますと反論が来ると思います。反論に対する反論、先言ってますけど、いや、徳川家康が名古屋城に登った上ったという資料証拠ないじゃないか、確かにありません。

上ったという記録もないし上ってないという記録もあります。

だけどもあ嘘じゃありませんので、井沢元彦さんと今日ちょっと時間がありますんで言っておきますけどねぜひ、せっかくですから、井沢元彦さんって名古屋のご出身の方なんで、逆説の日本史とか世界史も書いてます。

私は井沢さんの弟子を自認しております、ちゃんと有料で講演会をこの間も聞きに行きました。井沢さんが河村さん別に自認でなくてええよと言っていましたけど、井沢さんに聞いたんですよ。家康上ったかなって、名古屋城の天守に。それは井沢さんに聞いてください。

これ本当ですか。いや、そりゃ登ったに決まってるじゃないですかと。

なんで記録はないって、それは当たり前だからと。

要する名古屋城造っててすぐですね、あれ何年になるか大坂夏の陣に名古屋城から出陣して行くわけです。

これ、で、ちょうど西に向けて今で言うキャッスル今ないですけどキャッスルの方で作ったんです同じ秀頼の方を向けてですね、諦めよやとあんたもよといつて、天下取りたいのわからんけど、淀君がそう言つとるとるか知らんけど、わしの天下になるんだと家康はね、だて小さいどっかの大名ならするでという気持ちがあつて、それともう一つは、多分、家康は、秀吉に申し訳ないなと思つたと思つて僕は思いますが、河村さん、そういうことを思つとると総理になれんわと言つた歴史学者が居ましたけど、ええ。

秀吉からですね、息子を頼むぞと秀頼をとよっしゃよっしゃと OK OK と英語で言つたかどうか知りませんが、そこまで約束しとるのに記録残ってますわね。

そういう秀頼を殺しに行くわけですよ名古屋から出陣して、だから井沢さんが言つてましたけど、それは西の方を見てですね、大阪城があるわけですよ。

その間、今みたいに JR 東海のああいうのありませんから何も。だからダーっと見れるわけですよ、どっかに隠れとるやつおらんかと、どういう地形でどうなんだろうとか、ということを確認するために造つたんだからあれは、城の物見櫓ですよ。

監視台です。

だて、登つたでしょうと河村さんそう言つてもらつてもいいよと井沢元彦さんが言つておられました。

もしあったら、ビデオ見ておられるかわからんで、井沢元彦の逆説チャンネルでもやってますけど、あれ面白いですよ。よう見てますけど、そういうようなお城に、ですね。

ただ、もう一つの反論があるのは、その1750年ぐらいかな。

宝暦の改修って、傾きましてねお城が。そのときに図面もありますよね、ロープで引っ張って直したから、正確に言いますとその宝暦改修ときのお城ですけど、しかし一番原点は家康さんが造ったお城ですんで。

そういうのはね、私は皆さんにお願いしたけどよ、名古屋に一つだけ宝物を残させてくれということですよ。これは、いいたいことは、こういうことを言うのは市長としても情けないけど、多分、名古屋で一つですよこれ。名古屋城の天守本物、木造復元ですよ。

たった一つ、あとはそういうのはありません。

そう言う自分自身も情けないけど、空襲でめちゃくちゃ燃えちゃいまして、名古屋の街は、それから戦災復興事業というやつで、とんでもね8メートル以下の道路は作らないということで平和公園みんな墓を移転したということで、古い建物だってのはもうほとんど壊滅。

そん中で名古屋市民が自慢できるこの1000年にわたってね。

1000年てないというやけど法隆寺は1300年残ってますからねあれ。

言ってますけど、法隆寺も1400年ぐらい前に作ったんだけどすぐやっぱり論争があったけどやっぱり焼けたようだよ。

1300年残った。本当宝じゃないですかね。

奈良法隆寺以降の日本最高峰の木造建築だという学者がいます。

その名古屋のお城を同じように作らしてくれんのかと。

折角、図面があってできるのにとこれ。名工大の学長が非常に熱を入れてやったんですけど市の職員がやってますけど、名工大の学長に聞いたってみや、図面を作った人。

昭和5年に国宝になって、昭和7年に昭和実測図っていう近代測量による実測図を作ったただ一つのお城はやっぱり残してほしくない。

市民全員の皆さんに訴えかけてわ、どっかの街頭で、これ本当に。熊本城と同じだと言ってるけど、熊本城って、鉄筋コンクリートの城ですよ言っておきますけど、これ熊本の市長らと裏とってもらっていただけ電話しまして、あの名誉毀損のつもりにやと、事実を言っていかにと、みんな間違えるで、そりゃそうだわねって、違うわねってってます市長は。

記者：あまり質問の答えになってない気がするんですけど、ちょっと前の委員会で外部の検証チームを立ち上げるということは本当ですか

市長：何がしたい、粛々にやっていく

記者：その中で、その市長とか副市長もその対象に加えるべきなんじゃないかっていう意見も議会からはあったんですけど。もしそうなった場合、市長ご自身もその聞かれる対象になるのであれば、どんなふうに外部検証チームを進めていくのか、あるいはどれぐらいの時期にお話を聞き始めて、どれぐらいの時期にまとめたいとかスケジュール感と、具体的にどう

いうふうにその外部の検証を進めていくかということについて、お考えがあれば聞かせてください。

市長：聞かれれば、今いった通り答えますよ。市民の皆さんの無作為抽出によって、ある団体から何かどっときたやつじゃなくて、いっぺん本当にテレビカメラの前で初めて喋るような方で、本当の生の声を聞くのも、僕が決めたじゃないですよあれ、無作為抽出や。議会からのあの提案によって、その時無作為抽出ってないんですけど、決めたんですけど、まあいいじゃないのということとそうになりましたと。今言った通り答えますよ、私は私で、僕自身もあのややってほしいくらいだ。

記者：市長だから、もしその外部の研修をチームがあので市長もヒアリングの対象に加えたいと市長からお話聞きたいと言われた場合は、応じるつもりでいらっしゃる

市長：喜んでいくわ、初めに一番最初に手挙げて喋りますわ、まず俺から喋らせてくれ。そういうこと、なんでこんなことが起きたのかという話です。

記者：すいません。朝日新聞の質問の関連なんですけれども、今回ですね検証委員会が数ヶ月から長いと一年以上かかるかもしれないという杉野副市長のお話ありましたけれども、そうするとですね、これ名古屋城の復元化事業が、またいつ再開されるのかっていうのが今まったく見通せない状況で、暗礁に乗り上げてるって言うてもいいような状況になってると思うんですけれども。

この点について市長として、もうずっと、もう2009年ぐらいからずっと名古屋城の復元という話をされてきて、今2023年なんですけれども、また進まないっていうことについての受け止めといいますか、

市長：そりゃ悲しんで見える市民の方がものすごくたくさんお見えになると思いますね。現にこの週末でもそうでしたけど、特に高齢の方なんかは、僕もそうだけど74だでね、私も。これ早く本物の世界の宝を名古屋に残していきたいと。名古屋の街に、これわかっとなるかな。この木造復元というのと、新築だと言ってましたけどある方が、違いますからねこれ。もし同じだというなら文化庁行って抗議していってもらわなくちゃいけないですよ。木造復元と新築建造物は違うということですから、木造復元という世界で初めてのこんな巨大な建物を造っていくということを早くやってくれないと死んじゃうじゃないですか。はっきり言いまして、74ですから、早くやることやってあげるといえるか、やってあげる言うところとちょっとあれですけど、名古屋の街に宝を、名古屋の街に宝を作ろうと、1000年の市民の話ですよ。

だけど、文化を残すというのは、ものすごい価値感があるんですこれは。

そうでしょう。タクシーの、昨日あの2人おった、

記者：すいません。すごく市民の方が残念がってるということなんですけれども、それがでもある意味この問題が起きたのっていうのは責任は、これ市長にもあるんじゃないですか。

市長：わしいっとるがね、市役所の職員のミスは自分のミスだって
いってますがね。言ってます。しかし

記者：ちょっと若干さっきのお答えだと、少し他人事のように聞こえるんですけど、

市長：他人事じゃないですよ、自分事ですから。死んじまいますから、冗談じゃない

記者：暗礁に乗り上げていると、

市長：他人事みたいに言ってるのあんたじゃないの、

記者：他人事じゃなくて、暗礁に乗り上げてること自体が、名古屋城復元化計画が進まないこと自体が、それは市長のご責任だっていうことは思われていますか。

市長；いやいや、もうそう思うよりしょうがない、市長やっていますから、
800万給料もらっていますから。

残念だけど、しょうがないですよ、だけどエクスキューズ言わしてもらえれば、こういう日本で初めて世界で初めての木造復元ですよ、国宝の復元ですよ。旧国宝1号というのはすごいエネルギーが要るということです。エクスキューズをいわしてもらえれば。

記者：担当直入にお聞きするんですけど、前回の市民討論会なんですけど市長自身は自分のこれまでのあそこに至るまでのですね、発言だったりとか、あの会自体に関わってきた経験が頑張ってる市長自身、悪いと思われてるのか、いや、別に本心ではそんな別に自分自身が悪いと思っていないのか、

市長：なんか変なこと言っておられますけど私、本会議で謝りましたし、市議会でも何べんも謝ってるじゃないですかこれ。

何を言わせたいんですか、それ以上、人間に。それは申し訳なかったと思ってますよ、自分自身にも。もっと市民の皆さんの理解を得てね。

名古屋の宝ができてくるのを見たかったですよ、早く。

だってしょうがないよねこれ。

記者：先ほどのいや、我慢せよっていうのは、実は差別発言じゃないっていうような言い方とかですね

市長：そんなことないですよ、いいかげんに正確に言ってくださいよ、我慢しろというのは裸の言葉で我慢してるだけだったら、例えば、ある人と両方がですね、例えがあんまりよくないけど、質問した方が人が、私は本物のお城を作りたい、だていろんなことを若干時間かかったりするの我慢しろと、だけどあんたも完璧な誰でも上がれるようなお城を作りたいとこれ。しかし、なかなか両立しにくいじゃないかと。

だからお互いに我慢しようじゃないかとかそういう発言をした場合ね仮に、言い方です。言い方だけ現実はずうけど、ああいうようなきつい言い方をされると、差別発言になると、じゃないのかと。じゃない、そういう意味ですよ。

記者：わかりました。

市長：と論争しとたってもうしょうがないじゃないですか。

そんなの、肅々と調査というか進めていただいて

記者：市長すいません。中日新聞の鈴木です。引き続いて名古屋城のお話なんですけども、今後外部検証委員会を立ち上がっていく中で、この間の先日の議会の議論なんかを聞いていると、やっぱりその市民討論会そのものをのみに絞って検証するよりも、過去のプロセスにさかのぼって検証が必要ではないかということで、今市の方もそういう流れで進んでいると思うんですけども。

議員さんとかからは、結局そのこれまでのその議論のあり方が対立構図を生んで、結果的に市民討論会の場で、ああいう発言が出てしまったんじゃないかっていうような分断を市長らを招いてきたみたいな議員の発言もあったんですけども、市長自身はこれまで過去にさかのぼって、そういった指摘について、名古屋城の復元全体のその議論の進め方っていうのは、今問題があったかななかったかっていうことも含めて、どういうふうに捉えられてますでしょうか。

もう一点はその検証委員会っていうのはあくまでも市民討論会の部分を検証するべきなのか、それとも、これまでのプロセス全体も含めて検証するべきなのか市長としてのお考えはどちらかっていうことをお答えください。

市長：一番最初からいきますと、皆さん全員で、イッツ OK というふうになるとそれはいいんですけど、元々これは名古屋はずっとさかのぼりますと、経済のあれだったかな、もうコンクリートで耐震補強をするというふうに進めとったときがあったみたいですね。

相当前です、相当前です。

ただ、本市におかれましては昭和 20 何年かの調査によりますと、6 割から 7 割は木造にしてくれと言っとるアンケート。

しかし、燃えない城を作ろうということで、コンクリートでやって、だから国策でもあったんですね。熊本城もそうです、だからそういう経過をたどっておりますので、僕はそんな中でも 1 人でも理解してもらった方がええでねこれ。何でこんな途方もないことやるんだと。

木造天守閣、何考えてるんだとではいかなもんだね！人でも理解してもらおうと思ってものすごい時間をかけてきた。何回やりましたよね私、区民の区役所行って説明会。なんかやったでしょう、その上議会でも何回か議論がありまして、まだまだ足らんと言われればそうかわからんけど、僕とすれば、精一杯の努力をしてきたと。

だけどそれほどまでに名古屋の城を、こんだけ言っても知られてませんわ。

そんな何も木造で国宝1号だったの、図面もあるのって、そういう方が非常に多いです。残念ながら、だけどそのためにはやれる努力は相当してきたつもりですけど、まだお前さんのやっとなることが足らんのだ言われれば、それは自分で謝るよりしょうがないと。

ということですけど、僕とすればベストを尽くしてきたと皆さんの理解が広がるようにね。僕でもそうですよ。

いったことありますけど、私も小学校の時によ、写生会ですね、絵を書くので、このお城が名古屋城規定がありましたけど、このお城は国宝1号で、そんな図面が正確な図面があると、写真のまである知りませんでしたからねだから、私知らかったです。

一番上の上がってあれがあって、双眼鏡がうちも見えるかなというぐらいの楽しみだけどこれは本当に木造になったし、もう昔の天守だったらすごいだろうなどは思いました。

小さいころ。

そんなことですから、精一杯やってきたということしか、言いようがないよね、どこまでさかのぼるかってもうこれ議会でも可決されておりますし、何べんも説明しておりますんで

記者：市長、ありがとうございます。市長としてはベストを尽くしてきたってということで今、お話いただきましたけども、こういう検証委員会が必要とあればその市長がそのベストを尽くして期間の過去にさかのぼって調査が必要だって言われればそれに対しても応じるっていうのは

市長：喜んで応じますよ、悪いですけど。私は一番先に呼んでくださいと言います。

記者：わかりました、ありがとうございます。

記者：ちょっと私はちょっと未来の話というか、検証委員会が終わった後ですね、それをもとに、またバリアフリー対策については議論をして、実際の計画について考えていくことになると思うんですけど、今回の総務環境委員会の方でやった、出された担当局の6人へのヒアリング調査の結果を読みますと、やっぱり市長の思いを実現させようとして、一方で市民の声も聞く中で、かなり無理というか、大変な心理的なプレッシャーを受けながらもですね、計画を進めて、ややちょっと市長の発言、昇降設備を技術選定のときから始めてですね、この技術は認めないとかいう発言も市長がされたというのが、ヒアリング調査のなかから出てきたりするわけですけども、なんていうか検証を終えた後のスキームとしてなんですけども、どういうふうにするのかそのバリアフリー対策について臨んでいかなきゃいけないかと、どういう議論を改めてしていかなきゃいけないかと思ってるか、今のご所見を伺います。

市長：もうさっきから言っとるように一番上まで、いわゆる構造、構造の変革いってもいろいろありますけどね。

決まったもんじゃないですけど、5階まで今のやつでも大体1.5メートルの穴で、囲いまで入れると3メートルの穴あけなんです。多分真ん中に開けないかんって言ってます。両方になってくるから、ふちの方は木が集中しますので、スペースがない。

真ん中に、これ絶対じゃないですけど、3メートル3メートル、もしくは1.5メートル1.6メートル穴だけだったら、囲いもいりますからね、これを作るような格好でのことは、この辺は価値判断になりますよね。

よくねいろんなもの見てると、火災報知器があるじゃないかとかなんとか言いますが、これは文化庁の木造とは書いてなかったかなあ。歴史的建造物の復元に関わる要綱というちゃんルールがあります。

そこには高い蓋然性を持った建物を作ることそれ書いてあんです。そんなん、元々天守の下にはケーソンがありまして7000トンのこれが、そのあれを変えろという意見はないですこれはさすがに。地震等もありますから。だから全く寸分たがわぬようなかを火災報知器もないという意味じゃないんです。

中にまた防災については配慮してくださいという、文化庁のあの規定にあります。

復元が認められるには、それに対して忠実に、高い蓋然性を求めて、蓋然性というのは、プロアビリティというのが大体こうであるというんですけど、オールモストオールという感じのものを作っていくと。

いうことを、これで行こうとなるべくようけの人にそれは理解してもらってと、私これわるいけど任務でやっていますからねあれ、これ。本当によく言っとるじゃないですか。

建築基準法の除外規定のところに、こういう歴史的建造物をなぜ人間は残すんだと、こんな危ないものをお金もかけて、これ法隆寺の五重塔ですわね一番わかりやすいのは、あんな危ないもの、修学旅行がようけ来るのに、それは任務だからとはっきり書いてありますよ、これ。任務なんです。任務、オブレーションの仕事だよ最初これ、今を生きる名古屋の人間として、名古屋に焼け野原になっちゃったこの名古屋の街に、1個だけはやっぱり本物と世界に自慢できるものは残していきたいとそういう気持ちです。

他に二心は全くありません。

市長：ありがとうございます。

ちょっとそもそもの質問になってしまうんですけど、その職員へのヒアリング調査の部会で出されたヒアリング調査結果の資料は、市長はお読みになりました。

それについて、どういう印象を

市長：見ました。みんないろんな気持ちがあるんだけど、だなど。

だけど僕は今言ったように任務だとこれは。それと名古屋に宝を自分で残してこうと。

不自由な皆さんに対してもね、自由とハンディキャップがある皆さんに対しても、自分で行ってそれこそ、お願いしていこうと、これはそういう気持ちのあるところはなかったのかなと思いましたけどね。

そういう記述はなかったわ。任務と思ってと、そちら側の気持ち。

みんながあがれるのもそれは気持ちだろうと思うけど、宝を残そうという気持ち。

その発言はちょっとあの中にないなあやなと思いました。

記者：ちょっと重ねですけど市長の方で思ったのは、要は市長の任務というかそこも一つの視点だと思うんですけど、その点が、職員、記述がなかったっていう点でいうと職員にうまく伝えられてなかったかなと

市長：やっぱり前からずっと言っとったんですけど、これは。なかなかそこまで何べんも言ってたんだけど伝え切れたらなんだかと思えますね。

ただ市民に伝えるのはこれやで街頭でも立ってやるんですよ。

宝を残しましょうっていうことです。たった一つの宝です。

多分、もう今後こういう問題が出ることは名古屋の街はありません。

多分、多分だけど

記者：その検証は進むにせよですね、先月中旬にあった障害者の方からいろんな要望がありました団体からですね、まず要望書プラス質問も投げかけられてると思ひましてね、結局この問題の一つは障害者の皆さんとのコミュニケーション、その部分も問われてる気がするんですね。検証機関がある程度かかるのであれば、同時にですね、今市長の思いとか、お互いのその部分で、折り合うというか、寄り添う折り合う部分っていうのも、あの議論が必要だと思うんですけども、その障害者団体の皆さんとどのような形でこれからですね、よく議会では局長の皆さんが信頼回復に努めるとおっしゃいますけども、それが具体的にやっぱりどういうことをやっていくかってことを今後、市も検討しなきゃいけないじゃないかと思うんですがいかがでしょうか。

市長：そりゃそうだね役所の他の政策でもあるんだけど、どうしても部下に任せてしまってますわどうしても。やっぱ直接、やっぱり、僕のこったもんだで、一人ずつの方に話できりゃ良かったなと、今からでもできるんですけど、そういうコミュニケーションは、もうちょっと取らなきゃいかん、もうちょっとじゃないけど、ちゃんと話せばわかるって犬飼さんを撃たれて死にましたけど、話せばわかると、

記者：市長、熊本城の話は全く市長のおっしゃる部分っていうのは、僕はその通りだと思うんですが、あれは気軽な質問とか新聞で出たって話はですね、一つのそのバリアフリーを考える一つのきっかけとかですかね、決してオールアナッシングじゃないじゃないかってことをね、提示する一つの見方を示しているだけであって、熊本城にしようって誰も指摘して

きないわけで、その部分でやはり何かもうプラスアルファとかですね、今停滞してる議論をお互い折り合う部分っていうのを検討するっていうことが大事なんじゃないかと思うんですけども。

今のお話の延長で、その部分について、今の整備計画が出てる部分やはりバリアフリーでもう一つ考え方をプラス織り込まなきゃいけないっていう思いとかいかがでしょうか。

市長：熊本城のことについては昨日ですけど、あるところででとったらやっぱ誤解してる人いましたよ。あいうようにマスコミにでるもんだね。熊本城と同じかなって。

それ違うでって、それいいましたよ。現実にみんなそこまでのものすごく詳しく、お互いにね、勉強してるもんでありませんから、いうことがあったと。

いろんなアイデアについては、僕はあん時何遍も言っとったのは最上階まで上がったらいかんというのは現状の変更を、一番ひどいのは柱10本梁29本を逆か、取ってしまうようなのはとにかく駄目だし、それ以外でも、真ん中に3メートル3メートルのですね、そんなボンとですね、どういうんですか構造物ができてしまうのは、100年後に国宝も目指してやっていくわけですよこれ。ちょっとまずいんじゃないのとそれは。その間ここ5年10年で、もっと良いテクニックが出てくる可能性は十分ある。

だね、某ちょっと名前に止めてきますけど、会社に僕はあのやはり5、6、7、8年前頼んだときにチームを作ってくれて。その方はチームを作って検討したけど今の時点の技術では、条件付きですけど、これは人力でみんな支え合って、上へ上げていく方が多分いいでしょうと、今の時点ではということをした人もいますんでね、その追求は例えばリニア、モーターカーというんだと言われるかわからんけど、聞いてください人やってる人に、河村さんから何べんも電話がかかってきてうるさいでしようがなかったとかですね。

リニアの技術はこういうふうですと上がっていくようにならんか、大阪万博で結構いいのが出るらしいです。もっと小型化せないかんもんで、やっぱ最低5年はかかる3年から5年はかかるんじゃないかと言ってましたけど、そういうのをずっと追求していくと、それはやはりやり続けなやいかん。

名古屋で文化財のそういう建物にも、みんなが上がるようになったと、車椅子だけじゃなくてね、ベビーカーの子供もね、ベビーカーの子供さんにも上がってほしいですよ、僕からすれば、そういうのはどういう技術やってるかということは、調整を続けるということだけど現状において、ものすごい何か現状に変更を加えてもらってですね、失望させてまうということは、やめられた方がいいんじゃないですかと。もうやめてほしいと。

お願いだで、名古屋に宝をつくらせてくれと。

そのための方策考えますからということですよ。

記者：市長、現状の昨年12月に発表されたMHIの垂直小型化昇降機については従前通り、最初には1、2階とおっしゃったけども、現状では1階行かないとまず一つで、さらに別の技術を模索するということですか

市長：そうそう、それはそれやっていかない、ちょっと今の MHI のでも、あのより上については、私きましたけど本当にあんだけ取れるのはどうかと。確定しないんですよあれ。ちゃんと作らないかん模型みたいなやつを。この際、天守閣って三角になつとんの縁の方は木が入り組むわけですよ。そん中でうまいこと入るかどうか。

これ確定してないってましたよ話。

なにもそういう状況でやると、やるのもどうですかね。ということなんですけど5年10年。ちゃんと責任持って模型まで作りまして、階段の。あんなことやったことないですよ、どこも、すごい金かけて、そこでもっとな本当に出す人がおったんですけど、僕も割と頼りにしとった人たち、出さないんだ。応募しななかつた。

名前は言えませんがねそういうことでそういうことだね。

ええのが出てくると思いますんで、世界初めての技術を名古屋の宝と、名古屋の本当の宝を作らんと、ええホテルができましたけど、あそこ何か言ったと思いますね。これ本当にええかと名古屋市はこれ、多くの人が残念だけど名古屋市なんにもないがやあと。

こんなこと言うと感じ悪いけど、本当のことと言って言う人が多いですよ、これ。

そんな街にして、商売も大きいですけど、やっぱり精神的にやっぱりみんなで自慢できるもん作りたくないないにや。本当に名古屋に多分これ1個ですよ、あと1000年。

一個ですわ。いろいろ検討しましたが、1個でしょ。こういう話になる歴史的建造物で相当な値打ちがあって、エレベーターをつけて、構造が変わってやめたほうがいいか、やった方がどうかという議論になるのもないですね。もうないですね。

記者：市長、すいません。ちょっと類似でお伺いしたいんですけども、先ほどから本物本物の名古屋城というふうにおっしゃってるんですけども、文化庁はこれ復元したとしてもそれはあくまでレプリカだっという認識というか、そういう文書みたいなものを出してるんですけども、

市長：レプリカとは書いてないでしょ。

記者：複製品、レプリカって書いてありますよね。

市長：なんですかそれ。

記者：ガイドラインの方に。だからあくまで複製したものは、

市長：復元的整備と書いてある、ちょっとちがう。

記者：その作られたものはあくまで、つまりレプリカであって、つまり国宝とかそういうものではないという、

市長：復元的整備と復元とは違いますからね、全然。

記者：市長、これレプリカではないんですか。

市長：そういうね悪いですけど、ここまで言ったら時間かかってやめてくれといわれるけど、上にね、なぜ日本はこういう復元という議論するのかって、木造は燃えちゃうからですよ。木の文化ってこういうことなんです。

だから何年か前に奈良ドキュメントというやつで燃えとなくなるのかと。

欧米の考え方というのはパルテノン神殿だとか、こないだのフランスパリのノートルダム寺院だとか木の部分は燃えましたが、石の方が残ってるわけだから。向こうは本物の本物じゃないかんですよ。

となると、日本の場合燃えちゃうじゃないですかこうやって、そうでしょう。伊勢神宮が国宝とかそういうのじゃないですよ、春日大社国宝ですけど、あれ20年ごとに作り替えるわけです、じゃどう考えたらいいんだと。

だから復元というただ抽象的なものじゃなくて、三つ要件を作っておきまして、あったその場所にもう1回作ること。それからもう1個は、材料もなくなってますけど、同じものを使うこと。もう1個、図面と、そういうものが残ってるけど、この三つ要件が備わったら、これ木造復元として、あたかもそれはそこで焼けなかったと、そこに現存するんだというふうに考えるんですよこれ。それがもう木の文化の

記者：一応、文化庁はですね、再現された歴史的建造物の価値についてっていうところで、価値を伝えるための手段としての複製品レプリカと捉えるっていうふうに記載してるんですけども、要するにですね聞いた後、

市長：あとで見せて頂戴、抗議しますから。そういうだったら

記者：それできお聞きしたいのがですね、本物かどうかっていうのは誰が認定するんですか、

市長：社会が認定するんです

記者：その社会っていうのは具体的にはどういうこと

市長：皆さんが認定するんですよ。

形式的には文化庁ですけど。

記者：文化庁が本物と認定できるっていう認識でいらっしゃる

市長：認定にできるかっていうか、許可することです。

復元を許可する。

記者：復元を許可したらそれは本物ってことですか

市長：本物というのは言ってくるんですけど木の文化の場合は燃えちゃうんですみんな。

記者：それわかるんですけどね。そう市長が本物本物っておっしゃってるんですけども、要は、建て替えてるわけじゃないですか。

例えば明治以降に何か復元されたもので、それを何か文化庁が国宝と認定したりとか、本物と認定した事例って多分これは出ないと思うんですけども。大昔はわかんないですよ。だから本物っていうのは何をもちょう本物なのかそれは河村市長がやこれは本物だって思えばそれは本物か。何をもちょう

市長：市民が思うんでしょう。今言った、文化庁の奈良ドキュメントでたてた三つの要件ね、それに合致すると、同じ場所を作る、材料も同じもんで作ると焼けちゃったけど、それから図面等が残るとあるという場合については、れそこにあると、あたかも、焼けなかったと、昭和 20 年 5 月 14 日に焼けなかったなかつたこれは、いうふうに考えるんです。木の文化というのは、それは本物と言うのです。

記者：木で復元したら本物っていう認識なんですかね。

市長：その三つ要件が要りますよ。

記者：文化庁が本物と認定するっていうことなんですか。

だって本物って、誰かが認定しないと本物にはならないのじゃないですか。

市長：本物っていうのは市民が認定するんじゃないですかみんな、みんなてええ建物造ったなと燃えちゃったけど、

記者：市長が本物っていうのは市民の皆さんがこれはいい建物だって思ったら本物ってことわかりました。ありがとうございます。

市長：そんだけ、手続きはいりますよ、今言った。要件も、勝手に何でもというもんではありませんそれは。

木の文化、いうと長くなるけど、木の文化ちゅうのは本当になくなるんです。

木の文化というのは、だから一定の要件を今言った三つですよ、奈良ドキュメントで文化庁が言ったのもとで、あとはもうなくなっても、火災もあるし、朽ち果てるわ、パルテノン神殿の石と違うわね。

パリのノートルダムが一番いいですよ。

木の部分は全部燃えてます。

前の石の部分そのまま残ってますから。

だから、そういう要件のもとであたかも燃えなかったというふうに大事にしようとみんなで要件付きね。という概念を今挑戦しとるとのことなんで、大変ですわこれ、

記者：ですけどもはい検証チームということで立ち上がるんですけど、それで市長の認識として、今おっしゃったような計画自体が遅れてしまうという認識はお持ちでしょうか。

市長：それはまずいでね、丁寧にやるにしても、なんてか言うとやっぱり本当に待ってる人多いから、特に高齢者、俺もそうだけど、死んじゃうがね、本当にええ。

記者：その認識としては、検証チームを設置することにより、遅れるだろうなっていうことを感じ、という感じですね

市長：そんなことあんまり、そんな不幸なことを考えとったってしょうがないわね、もう世の中は、常に前向きでいかなきゃ意見。

わざわざ寄付してくれた人もよくござるし、そういう人たちの期待に応えなあかんわね。

そうでしょう、という話ですわ。

だで肅々と淡々と調査やるんだったら、僕から始めてください、滔々と喋りますから。

今の木造復元とは何かと、なぜ時間がかかったのかということ7ですよ。

記者：すいません、続きで読売新聞社ですね。

あの、ちょっと先ほど中日さんの質問にさらっと答えられたんですけど、あのこの垂直昇降機について、1階までに、設置は1階までっていうふうにお考えなんですか。

市長：いやなんとも言えないけどそういうこと言ってるものすごい多いんですわ。はじめ1、2階だわなと言ってましたねせめて作ってもと言ってましたけど。一遍ヒアリングしてちょうだい、本物を造りたい人に、そんな人ようけるから、二つ造れという人も結構いますよ今。昨日もいました。本当の本物は本当の本物で造る。

朝日の記者には本物でないきゃもなんか知らんけど、

記者：僕の質問じゃ、誰が認定するんですかって聞いたんですけど、

市長：そりゃ世間が

記者：何を根拠にして認定するんですか、僕は認定できないです・

市長：三つの要件があって最終的には市民がみんなてこれは本物だということですよ、形式的には文化庁です。

記者：ちょっともう1個、垂直昇降機は設置はするんですか。

記者：あれは選定しましたからね。

となると1階なら1階で、まず1、2階は構造はよく似てます、同じじゃなかったかな。

いろんな議論ありますけど、しかしそういうことに選定しましたからですけどね、あれあれでまた工夫も考えられるかもわからんということで、あれでと言ってますけど、みんな登れるという11人乗りじゃないと駄目ですよ。

電動車椅子も、ええんですか、これ何も言わないけど、そうでしょう、電動車椅子だと梁と柱10本と28本外さないかんから。

そうすると、もうこれ業者から聞いたんですけど業者の皆さんから、もう木では構造耐力がないから、鉄骨に替えないかと。

もともとの木造じゃないで何のためにやっと思ったの、となりますよこれ。

記者：ちょっと議会の中でも話題になったりとか、副市長答弁には繋がってしまったわけですけど、この昇降設備を名古屋城にカスタマイズというか、する上で3年ぐらい、技術検証が必要でっていうのが、あの技術的に体制として整えるっていうのが3年ぐらいかかるっていうのがありまして期間として、それを終えてから、その設置委員会について考えるのか、それともやっぱりそれはそれとは別で、まずその3年以内でも設置会について改めて考えるのかそこらへんはないと思いますけど

市長：3年って言ってますけど、私が聞いたところだとああいう構造物、上へ造ると、3メートル3メートルの籠ができて、こうなってくんで、煙突みたいなっちゃってますね、仮に火災とか、火災あまりないんで煙が出たとき、どうも大変なことになるみたいですよ。

ああいうの作るとこれ。という話をそちらの方のプロから伺いました。

階段ならまだいいけど、そういうのだと本当にみんな死んじゃうぜとって、これ煙の通り道ができちゃうもんでと、

記者：その3年以内にするか、3年後に検討実際に技術としてどこまで設置できるかっていうの検証を検討を終えてから考えるのかっていうと、まだそこは未定って感じですか。

市長：普通は早く作れるところは作って、あとはリニアのある業者は、あの河村さん3年から5年待ってってくれと。今はできんけど、小型のリニアモーターカーってなかなかの、リニアモーターか、技術の挑戦になるんで難しいけど、3年から5年待ってくれいうところもあります。

他の外付けでやる意見もあった。

今は特にあれ空飛ぶ自動車とかあるでしょ、昔あったけど、あの消防車みたいですよ。周りが危ないからちゃんと囲っておいて、その代わりで上で入ってるとこ造らんいけないんだけど、そういうのも5、6年前に検討したんだけど、全て出してくれなかったね。全てではないなあ。

司会：長時間になりましたので、これで一部の方を終了させていただきまして、第二部の方で話をお願いします。

河村市長：たった一つの名古屋の宝じゃないですかオンリーワン、名古屋ズトレジャー、多分オーバー・ワン・サウザンド・イヤー1000年ありません。残念だけど、

河村市長：そういうことでしたら、しゃべらないかんとそろそろ、お城のこともあるで、意味をな、宝は1個しかないよって名古屋の皆さんに訴えかけたいのは、残念だけど、こんなこと言うと観文局長怒ってくるかわからんけど、いろいろ考えてみりゃ名古屋で1個だけ宝、名古屋天守の木造復元しかないじゃないの。

熱田神宮ってすごい宝があるけど、あそこはちょっとああじゃこうじゃ言えませんので、ちゃんとこれは。

記者：ありがとうございます。